

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
10	4 (話す聞く3・書く1)	「うれしき」って何？——哲学対話をしよう	<p>◇お互いの考えや意見を関連づけて述べ合い、共通点や相違点をもとに分類する。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見を区別するなど、話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒◎思判表A(1)オ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(2)ウ</p>	9	<p>○「うれしき」について考え、互いの感じ方を伝え合うという学習の見直しをもつ。</p> <p>決めよう・集めよう</p> <p>1. 「うれしき」について考える。 (1) 人はどんなときに「うれしく」なるのか、を考える。「うれしい」というとき、どんな場面を思い浮かべられるか、発表し合う。 (2) 「うれしかったこと」「うれしいと感じるとき」を思い出し、具体的な場面を2～4つ書き出す。</p> <p>組み立てよう</p> <p>2. 「うれしき」を感じた体験をカードに書く。 書き出した中から1～2つを選び、「なぜうれしかったのか」「どんなふうなうれしさだったのか」をメモする。</p> <p>10・11 話そう・聞こう(重点)</p> <p>3. 「うれしき」に話し合い、分類する。 (1) グループで発表し合う。聞き手は、質問したり感想を伝えたりすることで、話し手の「うれしき」の感じを確かめながら聞く。 (2) グループで出された「うれしき」を分類し、名前を付ける。</p> <p>12 伝え合おう</p> <p>4. 発表し合い、感想を交流する。 (1) グループごとに「うれしき」の種類を発表する。 (2) 「うれしき」の種類を、学級全体でまとめ直す。</p> <p>○話し合いを通して気づいたことや、残った疑問などをまとめる。</p>	<p>◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(【思考力、判断力、表現力等】Aエ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(【思考力、判断力、表現力等】Aオ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ)</p> <p>【態度】積極的にお互いの考えや意見を関連づけて述べ合い、今までの学習を生かして共通点や相違点をもとに分類しようとしている。</p>
10 ～ 11	5 (書く2)	言葉は時代とともに	<p>△言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを知り、自分の考えをまとめる。</p> <p>△古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知ること。⇒◎知技(3)イ</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒知技(3)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆総合的な学習の時間・道徳：時代とともに変化していく言葉について興味をもって調べたり、わが国の伝統や文化への関心を高めたりする。</p>	1・2	<p>1. 『言葉は時代とともに』を読み、言葉の変化について考える。</p> <p>2. 『万葉集』や近代の代表的な文学者の作品にふれて、その言語表現を味わう。</p> <p>3. 身のまわりの事物から、言葉の変化を考えてみる。</p> <p>4・5 4. 時代とともに変化していく言葉について調べて、考えたことを交流する。</p>	<p>◎【知技】古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知っている。(【知識及び技能】(3)イ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(【思考力、判断力、表現力等】Bカ)</p> <p>【態度】積極的に言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
11	6 (書く6)	三 説得力のある文章を書こう	■理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書く。			
11		自分の考えを発信しよう	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、語や文章の構成や展開、語や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間など：文章を書く活動でも活用できる。	1 2 3 4 5 6	○「学習の進め方」を読み、どのように意見文を書くのかイメージし、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 課題を決めて、取材する。 組み立てよう 2. 自分の主張を効果的に伝える構成を考える。 書こう(重点) 3. 意見文を書く。 読み返そう(重点) 4. 意見文を読み返す。 伝え合おう(重点) 5. 友達と読み合って、交流する。 ○学習を振り返る。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bエ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(【思考力、判断力、表現力等】Bカ) 【態度】積極的に情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、学習課題に沿って理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書こうとしている。
11	1	漢字の広場 ④ 音を表す部分	△形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解する。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。 また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. p.38「1」の設問にある文例を読み「清」「晴」「精」の共通点について考える。 2. p.39「2」の設問に取り組み、音を表す部分が、へん・つくり・かんむり・あし等のどの位置にあるか話し合う。 3. 文字によって音が違うものもあることを知る。 4. p.39「3」の設問をもとに、未習の漢字の読みを推測する。 5. p.39「4」の設問に取り組み、音を表す部分への関心を深める。 6. p.39「5」の設問を解き、同音の漢字を正しく使い分けるようにする。 7. p.39「6」の設問に取り組み、音を表す部分を共通にもつ漢字の仲間を探し、ノートにまとめ、それぞれの漢字を使った熟語を集め発表し合う。	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(【知識及び技能】(3)ウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字や文章の中で使い、学習の見通しをもって形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
	1 (書く1)	漢字の広場 ④ 五年生で学んだ漢字 ④	<p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p>	2	<p>8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。</p> <p>9. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。</p> <p>10. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。</p> <p>○学習したことをふり返る。</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
11 ～ 12	8 (書く 2)	三 登場人物の変化を読み、 自分の考えをまとめよう	□登場人物の心情の変化を考えながら読み、想像 したことを書く。			
11 ～ 12		きつねの窓	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分け るとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく 書くこと。 ⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、語や文章の中 で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成 や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し て、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたこと などから書くことを選び、集めた材料を分類した り関係付けたりして、伝えたいことを明確にする こと。 ⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書い たりするとともに、事実と感想、意見とを区別し て書いたりするなど、自分の考えが伝わるよう に書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写 を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像した り、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判 表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分 の考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自 分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像し たことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明した り、自分の生き方などについて考えたことを伝え 合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、生命がかげがえ のないものであることを知り、自他の生命を尊重 することについての考えを深める。	1 2・3 4・5 6 7・8	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 子ぎつねに対する「ぼく」の心情の変化をまと める。 考えよう 2. 「窓」に移ったものや、「ぼく」と子ぎつねの 「窓」に映ったものを比べて気づいたことをノート にまとめる。 深めよう 3. 不思議な世界に行ったことによって、「ぼく」 にはどのような変化があったのか話し合う。 広げよう 4. 「窓」でどのようなものを見たいのか、理由と 合わせて想像したことを書き、友達と読み合う。 ○学習をふり返る。	◎【知技】思考に関わる語句の 量を増し、話の中で使っている とともに、語句と語句との関 係、語句の構成や変化について 理解し、語彙を豊かにしてい る。また、語感や言葉の使い方 に対する感覚を意識して、語や 語句を使っている。(〔知識及 び技能〕(1)オ) 【思判表】「書くこと」におい て、目的や意図に応じて簡単に 書いたり詳しく書いたりしてい るとともに、事実と感想、意 見とを区別して書いたりしてい るなど、自分の考えが伝わるよ うに書き表し方を工夫してい る。(〔思考力、判断力、表現 力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」にお いて、人物像や物語などの全体 像を具体的に想像したり、表現 の効果を考えたりしている。 (〔思考力、判断力、表現力 等〕Cエ) ◎【思判表】「読むこと」にお いて、文章を読んで理解したこ とに基づいて、自分の考えをま とめている。(〔思考力、判断 力、表現力等〕Cオ) 【態度】進んで登場人物の心情 の変化を考え、学習の見通しを もって想像したことを書こうと している。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
12	6 (話す聞く・書く2)	書評を書いて話し合おう	<p>△これまでに読んだ本の中から好きな本について書評を書き、紹介し合う。</p> <p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒◎知技(1)イ</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見を区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ</p> <p>◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ</p> <p>◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)エ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆図書館指導：友達に紹介された本を探して読む。</p>	1・2	<p>○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p>決める・集める 1. 自分が紹介しようとする本を読む。</p> <p>組み立てる・書く 2. 自分の考えを整理して書く。</p> <p>伝える・伝え合う 3. 書いた文章を紹介し合い、互いに感想を交流する。</p>	<p>◎【知技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)オ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見を区別するなど、話の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ)</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>【態度】進んで書き表し方に着目して文を整え、これまでに読んだ本の中から好きな本について書評を書き、紹介し合おうとしている。</p>
12	2	敬意を表す言い方	<p>△話す相手や場面に応じて、敬意を表す言い方を適切に使分けける。</p> <p>△日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ⇒◎知技(1)キ</p>	1	<p>○冒頭の会話文を通して、敬意を表す際に様々な言い方があることを知る。</p> <p>1. 教科書を読み、敬意を表す言い方としてどのような言い方が適切か理解する。</p>	<p>◎【知技】日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れている。(〔知識及び技能〕(1)キ)</p> <p>【態度】積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って敬意を表す言い方を適切に使分けようとしている。</p>
				2	<p>2. 場面や相手に応じて、敬意を表す言い方として適切な言い方を選ぶ。</p> <p>○学習したことをふり返る。</p>	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
	1 (書く1)	漢字の広場 ⑤ 五年生で学んだ漢字⑤	<p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p>	2	<p>5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。</p> <p>6. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。</p> <p>7. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。</p> <p>○学習したことをふり返る。</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元/教材の目標 学習指導要領との対応 (学習事項(1)・言語活動例(2))	時	学習活動	評価規準
1~2	11 (書く3)	四 伝記を読んで、人物の生き方について自分の考えをまとめよう	□伊能忠敬の生き方を考えたあと、興味のある人物の伝記を読んで、その人物を紹介する。			
1~2		伊能忠敬	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること ⇒◎思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳:伝記の読みをとおして、より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする気持ちをもつ。	1 2・3 4・5 6・7 8~11	○単元とびらを読んで、学習の見直しをもつ。 確かめよう 1. 時を表す言葉や年齢を手がかりに、伊能忠敬の人生を年表に整理する。 考えよう 2. 伊能忠敬がどのような人物なのか(性格・ものの見方・考え方など)がわかる文を選んで、伊能忠敬の人物像を話し合う。 深めよう 3. 伊能忠敬の生き方で深く考えさせられたことをまとめ、それについての自分の考えを、ノートに書く。 広げよう 4. 伊能忠敬について、どのような人物なのかの紹介と、その生き方についての自分の考えをポスターにまとめて、友達と読み合う。 ◎学習をふり返る。	【 知技 】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(【 知識及び技能 】(1)カ) 【 思判表 】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【 思考力、判断力、表現力等] Bウ) ◎【 思判表 】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(【 思考力、判断力、表現力等] Cエ) ◎【 思判表 】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(【 思考力、判断力、表現力等] Cオ) ◎【 思判表 】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(【 思考力、判断力、表現力等] Cカ) 【 態度] 積極的に原因と結果など情報と情報との関係について理解し、学習課題に沿って伊能忠敬の生き方を考えたあと、興味のある人物の伝記を読んで、その人物を紹介しようとしている。
2	2	日本語の文字	△日本語の文字の由来や特徴に関心をもち、適切に使分けができる。 △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いにも注意して書くこと。 ⇒知技(1)ウ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	1 2	○日本語は、さまざまな文字を使って書き分けられていることを知り、学習活動に対する見直しをもつ。 1. 漢字の由来・特徴について理解する。 2. 平仮名と片仮名の由来・特徴について理解する。 3. ローマ字の由来・特質について理解する。 4. 日本語の文字と外国語の文字との違いについて理解する。 5. 日常生活の中で、日本語の文字がどのように使われているかを話し合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【 知技] 語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(【 知識及び技能] (3)ウ) 【 思判表] 「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(【 思考力、判断力、表現力等] Aア) 【 態度] 積極的に日本語の文字の由来や特徴を理解し、今までの学習を生かして適切に使分けようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
2	1	漢字の広場 ⑥ さまざまな読み方	<p>△同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に関心をもつ。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ</p>	1	<p>○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 「上手」を例に、意味によって読み方が変わる言葉（同形異語）について知り、それぞれの意味や感じ方の違いを比べる。</p> <p>2. p.108下段の設問に取り組み、話し合う。</p> <p>3. 「特別な読み方の言葉」（熟字訓など）について知り、p.110の一覧表を使って、どのような言葉があるのか確かめる。</p> <p>4. 「降」「背」「夜」「尊」など、複数の訓がある漢字（同字異訓）の読み分け方について関心をもつ。</p> <p>5. p.155からの「小学校で学んだ漢字」をもとに複数の訓がある漢字を探し、送り仮名に注意し、表現の効果などについて確かめたり、工夫したりして文を書き、友達どうして読み合う。</p> <p>○学習したことをふり返る。</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に関心をもつ</p>

